

た目は、老けた顔に見えます。自分は一般の人と違うことを認識していて、社会から離れて自分の世界をつくりあげています。

このタイプは、動物が何よりも大好きです。人生のすべてを動物のために捧げようとしたり、異常なほどの愛情で自分のペットに接します。たくさん動物を飼って、囲まれて暮らすのも大好きです。動物には話しかけますが、人には話しかけようとしません。人とのコミュニケーションではトラブルを怖れるためです。これは、乳幼児の頃の授乳時の問題のために、母親から受ける愛情に歪みが生じてしまったことが、潜在的に起因している場合があります。動物は裏切らないので、安心感が得られるのです。

夜寝ていても息苦しい感じがして、何度も目が覚めてしまいます。息苦しさをなくすために窓を開けます。

病気が進行すると、眠るのが怖くなります。二度と起きないのではないかとさえ思います。そのため、外科手術の麻酔にも恐怖心があります。

牛乳を飲むと吐いてしまいます。喉は渇きません。

AFFINITY

Aethusaは、主に脳、神経系、消化器系、腺組織、肝臓などに作用します。とくに、乳幼児の牛乳による胃腸のトラブルによく使われます。また、夏季に使用頻度の増えるレメディです。

CLINICAL APPLICATIONS

■消化器系

- ・新生児、乳幼児の胃腸炎：しばしば、牛乳や牛乳成分がたくさん含有されている食事などの後に起こしやすい傾向があります。胆汁の混ざった緑色っぽい下痢になります。嘔吐や下痢の後に眠気がくること

があります。

- ・牛乳（乳糖）不耐症：牛乳を飲むと吐き出してしまいます。

■神経系

- ・記憶力の欠如、注意力の欠如：とくに、栄養障害や胃腸炎で落ち着かない乳幼児に考慮すべきレメディです。不安で泣き叫ぶこともあります。ボーッとした状態とイライラした状態が交互に来ることがあります。また、過度の詰め込み教育により、突然、勉強を受け入れなくなってしまった学生に使用することもあります。
- ・痙攣：眼球が下方向に向きます。母指が硬直することもあります。

■その他

- ・湿疹：皮疹や発疹がしやすい傾向があります。鼻の頭によく湿疹ができます。
- ・気管支炎：夜中に何度も息苦しくなって、圧迫感から窓を開けたくくなります。
- ・耳漏：耳道の閉塞感が強くあります。耳道内の熱を感じます。
- ・乳幼児の授乳時の問題

MODALITY

- 外気、外気の中を歩くこと、休息、会話、頭にバンドをきつく巻くことなど
- ◀ 牛乳、コーヒー、嘔吐や下痢の後、飲食後、暖かい気候、夏、菌生、頻繁な授乳など

RELATIONS

- ・Antidote to：Opium
- ・Complementary：Calcarea carbonica, Silica

Agaricus muscarius ベニテングタケ [痙攣、筋肉のふるえ、てんかんなどの神経系の異常]

Amanita muscaria (L. ex Fries) Hooker
Amanita muscarius L.

BACK GROUND

Agaricus muscariusは、世界各地に自生するハラタケ類テングタケ科テングタケ属に属するキノコで、一般的にベニテングタケ、Fly agaric, Scarlet cap, Toadstoolなどと呼ばれています。

Fly agaricは、このキノコが蠅を殺す作用をもってに由来します。夏から秋になると、シラカバやダケカンバなどの林の林床に点々と群生します。

傘は、はじめのうちは鐘形で、最後にはほとんど平らに開きます。径は6～15cm、時に20cmくらいまで



大きくなります。傘の表面の色は橙黄色～朱赤色で白くて軟らかい点が多数点在しています。この点の破片は幼時のツボの破片が付着しているものです。ひだは柄に離生し、白色で密生しています。柄は白色で表面には白いささくれがあります。柄の中ほどには白色のつばがあり、根もとは球根状にふくらみ、つばの名残があります。胞子の大きさは平均 $11\mu\text{m} \times 7\mu\text{m}$ で、表面は平滑で広楕円形を呈しています。

このベニテングダケは、その特徴的な形から、西洋のおとぎ話の挿絵によく出てくるキノコです。

この派手な色や形から猛毒そうですが、それほど強い毒ではありません。シロタマゴテングダケやタマゴテングダケ、ドクツルダケなどに比べれば、はるかにその毒性は弱いものです。塩蔵するか煮こぼすと毒性が消えるため、食用にしている地方もあります。毒の量や成分は、生育場所や時期により多少違いがみられます。一般的に傘の色が濃いほうが、毒性が強い傾向があります。

ベニテングダケは世界各地において、古くから宗教儀式などに利用されてきました。とくにシベリア地方での使用が盛んだったようで、シベリアのハンティー族やコリヤーク族の人々は、生または乾燥させたベニテングダケをそのまま食べたり煎じて飲むことで、多幸感や身体的な活力、深い幻覚を引き起こすために使用しています。10世紀頃にはバイキングが闘いの前に闘争心を高めるために用いたり、南米では、ベニテングダケを喫煙で使用して、トランス状態になる補助に使うシャーマンもいます。北米や東南アジアでの使用も報告されており、もっとも広く、古くから使われてきた精神活性物質の1つです。

主な成分には、イボテン酸とムスカリン、ムスカゾン、ムスカリジンなどがあります。これらの有効成分の多くは傘の表皮に含まれています。

イボテン酸は、グルタミン酸類似の構造をもち、アトロピン様作用をもっています。はじめにイボテングダケから発見された物質で、食べるとグルタミン酸よ

りもはるかにおいしい成分といわれています。イボテン酸は比較的不安定な化合物で、乾燥などにより、容易に脱炭酸してムッシモールに変化します。イボテン酸およびムッシモールはともに中枢神経系の抑制伝達物質の1つである、 γ -アミノ絡酸（GABA）と同じ働きをすることがわかっています。ムスカリンは、副交感神経作用を示します。ムスカリジンは、クラレ様作用をもっています。他にも、コリン、ベタイン、レシチンなどが含まれています。

ベニテングダケを摂取すると、摂取後20分から2時間以内に、胃腸症状とアトロピン作用の中毒症状が出ます。摂取量により症状は変わりますが、嘔吐、下痢を起こし、瞳孔は散大し、頻脈になり、幻覚や幻聴などの感覚神経的異常、痙攣や間代性筋痙攣のような運動機能障害が起こります。錯乱状態になることがあり、最後には昏睡状態になることがあります。毒性はあまり強いほうではないので、死にいたることは減多にあります。幻覚など神経興奮状態はおおよそ4時間続いて、のち眠くなります。通常24時間以内に回復します。

MATERIAL

ツボの破片を除いたキノコ全体

FIRST PROVING

ハーネマンら（『Chronic Diseases』）

MIND

*Agaricus muscarius*が効きやすいタイプは、精神発達遅滞または多動の子供や、知的障害をもち、よくふるえる傾向のある高齢者、向精神薬やアルコール飲料の乱用による中毒患者などがあります。もちろん、他のケースにも適用されます。とくに高齢者は、癌をはじめ病気を過剰に怖がる傾向があります。しかしながら、その他のことに対しては、恐怖心がありません。バランスのとれた見方ができず、小さなことでも大げさにとらえてしまいます。

AFFINITY

*Agaricus muscarius*は、主に、脊髄、心血管系、呼吸器系、胸部、蠕動運動に作用します。

CLINICAL APPLICATIONS

このレメディは、臨床では、とくに痙攣、筋肉のふるえ、てんかんなどの神経系の異常に使われます。

■神経系

・チック、痙攣の発作

- ・高齢者のふるえ、さまざまなタイプのふるえ：性交で悪化します。
- ・舞蹈病
- ・坐骨神経痛、腰背痛：座ることによって悪化します。脊髄を走るような鋭い痛みがあります。
- ・ベル麻痺：片側性に顔面筋が麻痺します。
- ・顔や脛のチック：筋肉がこわばり、焼けるような感覚とかゆみがあります。性交後、嵐の前に悪化します。神経痛がある場合には、鋭い痛みを伴うことがあります。
- ・多発性硬化症
- ・神経筋障害
- ・線維束性攣縮
- 皮膚
 - ・しもやけ（凍瘡）：感覚障害を伴います。
 - ・肢端疼痛症：焼けるような感覚とかゆみがあります。虫が歩いているような感覚になることもあります。
 - ・肢端チアノーゼ（手、足、鼻、耳）
 - ・寒冷凝集素症
- その他
 - ・花粉症：とくに耳と口蓋のかゆみを伴います。
 - ・高齢者の鼻血：鼻の外も中もかゆくなります。また

- ・鼻腔内や口腔内が痛くなることもあります。よく、くしゃみが出る傾向があります。
- ・めまい：日差しの下や歩いているときに起こります。
- ・激しい咳：夜に痙攣性の咳が出ます。粘液の小さな塊を吐き出すのが特徴です。くしゃみで咳が鎮まることがあります。
- ・肉離れ

MODALITY

- ▶ ゆっくりとした適度な運動
- ◀ 寒さ、凍える空気、嵐の前、寒い時期の性交、お酒、触られること、座ること、生理中の朝、太陽など

RELATIONS

- ・ Antidote : Absinthium, Coffea, Camphora

● Agaricus muscarius と同属のレメディには、主に次のものがあります。

Agaricus bisporus, Agaricus campestris, Agaricus citrinus, Agaricus pantherinus, Agaricus phalloides, Agaricus procereus, Agaricus semiglobatus, Agaricus stercorarius, Agaricus vernus

Agnus castus セイヨウニンジンボク [性欲減退と勃起不全]

Vitex agnus-castus L.

BACK GROUND

Agnus castus は、地中海沿岸地帯から西アジア原産のクマツヅラ科ハマゴウ属の耐寒性落葉低木であるセイヨウニンジンボクです。中国原産のニンジンボクに似ていることからセイヨウニンジンボクと呼ばれるようになりました。イタリアニンジンボクとも呼ばれています。

一般名は、Chaste tree, Agnus castus, Chaste berry, monk's pepper などと呼ばれています。

学名の agnus-castus は、ギリシア語の hagnos とラテン語の castus に由来し、どちらも「純粋な」という意味です。この植物は、貞操のための目的で使用されていたことに由来しています。

セイヨウニンジンボクの高さは2～5mに成長し、株全体に芳香があります。葉は、細い長円形の小葉5

～7枚が輪生する掌状複葉です。開花期は夏から秋にかけての時期で、茎の先端に薄紫色または白色の小さな花が円錐状に咲きます。花後の果実は、香料として利用されています。

この植物は、さまざまな用途に2000年以上前から利用されています。古代ギリシアでは、性欲を鎮めるために使用されました。ヒポクラテスは紀元前450年に脾臓の炎症や肥大の治療に使用し、ディオスコリデスは西暦50年頃、子宮の炎症に使用した記録が残っています。中世の中東では、精神病、てんかんなどの治療に用いられていました。中世以降、この植物は女性の生殖システムの不調に使用されました。

近年、この植物の果実から性ホルモンと類似した構造をもつ、いくつかの成分が単離されています。この植物は黄体形成ホルモンや催乳ホルモン生成を促進す

